



しあわせ信州

長野県(環境部)プレスリリース 令和7年(2025年)3月31日

第7期野尻湖水質保全計画を策定しました

湖沼水質保全特別措置法に基づく「第7期野尻湖水質保全計画」を定めましたのでお知らせします。

第6期計画に引き続き「みんなの野尻湖 美しい姿を次世代に」をキャッチフレーズとして、各種施策を推進し、野尻湖の指定湖沼の解除を目指してまいります。

1 計画の目的

地元住民や関係機関と連携した水質保全対策を計画的・総合的に実施し、引き続き野尻湖の水質保全を図る。

2 計画期間

令和10年度までの5年間



〈野尻湖の風景〉

3 計画の概要

別紙のとおり

(計画の全文は水大気環境課のホームページをご覧ください。)

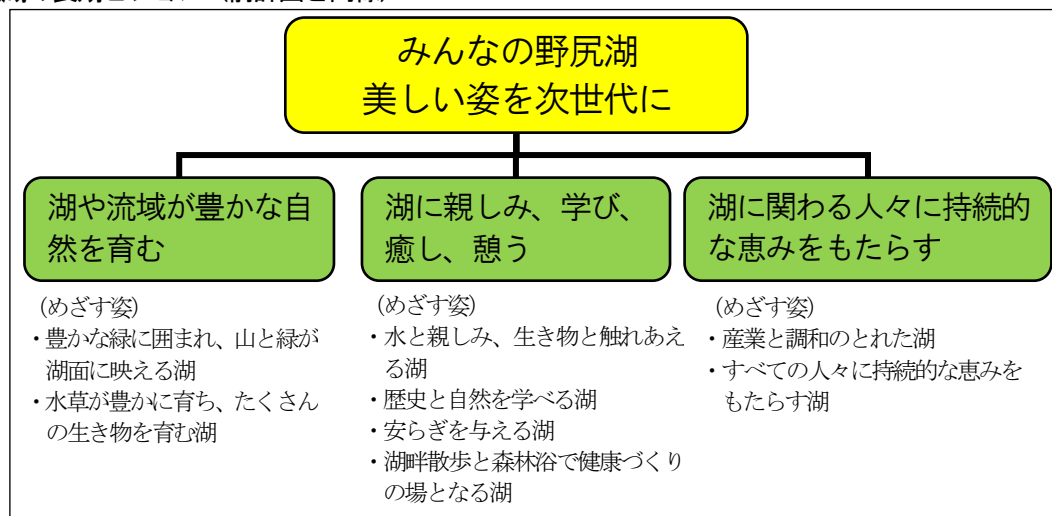
<http://svcms.pref.nagano.lg.jp/cms8341/mizutaiki/kurashi/shizen/suishitsu/nojiriko/keikaku.html>



(問合せ先)
環境部 水大気環境課 水環境保全係
中島、土屋
電話：026-235-7162 (直通)
：026-232-0111 (代表) 内線 2756
FAX：026-235-7366
E-mail mizutaiki@pref.nagano.lg.jp

第7期野尻湖水質保全計画の概要

1 野尻湖の長期ビジョン（前計画と同様）



2 水質保全に関する方針

- (1) 計画期間 令和6年度から令和10年度までの5年間
- (2) 水質目標

項 目		現 状 (令和5年度)	計画期間内に達成すべき目標 (令和10年度)	環境基準
化学的酸素要求量 (COD)	75%値 (mg/L)	2.5	2.5 (現状水質の維持)	3.0
	[参考] 年平均値 (mg/L)	2.0	2.0 (現状水質の維持)	—
全りん	年平均値 (mg/L)	0.005	0.005 (現状水質の維持・向上)	0.005
湖心透明度	年平均値 (m)	7.0	7.0 (現状水質の維持・向上)	—

3 第7期計画における主な取り組み

- (1) 生活排水対策
- ・信濃町全体における生活排水施設整備率を83%に向上させるとともに、直接流域内には単独処理浄化槽が残っているため、生活雑排水対策として、重点的に下水道への接続を求めています。
- (2) 非特定汚染源対策
- ・信州の環境にやさしい農産物認証の取得、有機農業の導入などの各種制度の普及啓発を図るとともに、環境にやさしい地域ぐるみの取組を推進します。
 - ・森林等自然地域の持つ多面的な機能を発揮させるため、森林整備等の維持管理に努めます。
 - ・野尻湖沿岸帯の水生植物等の生物多様性を確保し、自然の浄化能力の活用を図ります。
- (3) 調査研究の推進と活用
- ・水草帯回復が水質の改善や植物プランクトンの動態に及ぼす影響を把握するため、水草のモニタリングに加え、植物プランクトンの調査手法を開発し、その結果を今後に活かします。
- (4) 情報発信
- ・スポーツ大会などの機会に野尻湖の良好な水質や水質保全の取組などについて情報発信を行うことにより、地域住民や野尻湖を訪れた方の環境保全意識の醸成及び観光地の魅力向上を図ります。
- (5) 地元主導による取組の強化
- ・関係する行政機関等で構成する既存の連絡会議に加え、新たに信濃町と協議の上、地元関係者との意見交換会を開催します。

1 野尻湖の現状

1 野尻湖の概要

野尻湖は長野県北部の上水内郡信濃町にあり、妙高戸隠連山国立公園内に位置する県内最大の貯水量を誇る天然湖沼です。

野尻湖の透明度は高く、周囲の鮮麗な山々とともに美しい景観を成しています。

文化観光資源としても重要な役割を果たしており、古くから国際的なリゾート地として知られています。

利水面では、発電、かんがい用水、内水面漁業のほか、水浴、ボート、ヨットなど様々なレクリエーションの場になっています。

かつては長野市の水道水源に利用されるなど多くの利用価値を有しています。

野尻湖の諸元	
湖面積	4.45km ²
貯水量	95,676千m ³
水深	最大38.3m 平均20.8m
滞留時間	738日
湖面標高	656.8m
流入河川	11河川
流出河川	1河川
直接流域面積	12.9 km ²
間接流域を含む流域面積	185.3km ²
流域内市町村	信濃町、長野市、新潟県妙高市

2 これまでの取組

- ・生活排水対策（下水道の整備など）
- ・流出水対策（環境にやさしい農業の推進、流入河川の清掃など）
- ・その他（野尻湖クリーンラリーの実施、水草復元モニタリング）

3 水質の推移

これまでの取組の結果、CODは平成17年度以降上昇傾向が見られたものの、その後は、1.8～2.5mg/L前後で推移しています。利水の現状を踏まえて県内湖沼の水域類型を令和5年3月に見直したことにより、野尻湖の水域類型はA類型とされたことから、令和5年度に初めて環境基準を達成しました。全窒素は環境基準が設定されていませんが、0.1～0.15mg/Lの範囲内で概ね横ばい、全りんは環境基準である0.005をほぼ達成するなどの改善傾向が見られ、当初問題となった淡水赤潮は見られなくなっています。

